

令和6年度 学校評価書(共通) 後期

校名

宇和島市立北灘小学校

1 自己評価書

教育目標	「北灘を愛し、心豊かに、生き生きと活動する児童の育成」 スローガン「大好き！ふるさと北灘！」				
基本方針	北灘地区の文化と伝統、地域人材を生かし、ふるさとに愛着を持ち、心豊かに生き生きと活動する児童の育成を目指して、保護者や地域と共に歩む学校づくりを推進する。				
本年度重点目標	①社会の変化に対応するための豊かな知識・技能を習得させ、想像力を高める教育を推進する。 ②多様な人との協働的な活動を通して、個のよさを実感させ、それぞれの可能性を伸ばす。 ③児童が健康で安全に過ごし、心身ともに安心して学校生活を送ることができる環境を整える。				
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
確かな学力の定着と向上	① 全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	各調査の分析により成果と課題を把握するとともに、「身に付けさせたい力」の明確化を図り、組織的に推進することができた。	・分析資料の作成 ・具体的な対策の実施	B B	B
	② 授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B A A	A
		ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	B A	B
		一人1台端末(iPad)やEILS(コンテンツバンク)の活用により、個別最適な学びを推進したり学習内容の定着を図ったりした。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B B A	B
	③ 家庭学習の充実	家庭との協働による主体的な学習習慣の確立に努めた。(予習・復習・振り返り等)	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B B A	B
④ 読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B D B	C	
⑤ ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B A A	A	
(成果と課題) ○ 授業や家庭学習の場面で、一人一台端末をほぼ毎日、活用することができた。児童は、新たなAI教材(すららドリル)の操作にも慣れ、単元後の復習、テスト勉強として意欲的に取り組んでいた。 △ 「読書活動の充実」における保護者アンケート結果が前期より更に数値を下げた。児童の読書離れにどう取り組んでいくか、大きな課題である。					
(改善策等) ・ 実態に応じて、教師がおすすめの本を持参し、紹介する。また、読書を宿題としたり、スピーチ活動の題材にしたりすることで読む環境をつくる。 ・ 読書に興味を持ったり、読書の楽しさを味わわせるために、図書委員会が主体となり行う「読書集会」を3学期に開催する予定である。 ・ 学校だよりを通じて「家族読書」を推奨していく。短い時間で構わないので、家族でゆっくりと本の世界に浸る時間の確保につなげていきたい。					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
生徒指導の充実	① 規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B A A	A
	② 児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B A A	A
		不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	A B A	A
		いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	A A B	A
	③ 関係機関との連携	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	B A A	A
④ 自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。 自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート ・児童アンケート ・教師アンケート ・児童アンケート	B B B A	B	
(成果と課題) ○ 学級担任が、休み時間に率先して運動場で児童と過ごす時間を設けていたため、一人一人の様子や人間関係の変化等に気が付くことができた。保健室前に「ぼかぼか言葉」の掲示コーナーを設置したことは、相手の気持ちや立場を考えた言葉遣いをしようとする意識の向上につながった。 △ 学校生活を安全に過ごすためのルールが守りにくい傾向がある。規範意識を確実に身に付けさせる必要性を感じる。					
(改善策等) ・ 学校生活のルールに関しては、その都度声を掛け、場合によっては「やり直し」をさせながら根気強く指導を徹底していく。同時に、道徳科や保健体育等の学習とも関係付けながら、発達段階に応じて児童自身が自らの行動を考える機会を大切にいく。 ・ SNSが発端となる人間関係トラブルが増加しないよう、「SNS学習ノート」や「えひめっこ情報リテラシーアプリ」を利用しながら、確実に指導を行う。					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	① ワーク・ライフ・バランス	時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指すために、教職員の働き方の意識改革に努めた。	・教師アンケート	A	A
			・「出勤・退庁調査」の分析と活用	A	
	② 働きやすい環境づくり	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。 休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	B	B
・教師アンケート			A	A	
③ 他の教職員のサポート体制の充実	教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	B	B	
<p>(成果と課題)</p> <p>○ 一人の教職員が複数の業務を抱える状況を減らすために、学校行事の準備及び課外活動(陸上・音楽会練習)における教職員の役割分担を明確に行った。互いに「任せられるところは任せる」という意識を共有し、チームとして勤務を続けたことは時間外勤務減少の一助となった。 △ 前期と比較すると地域人材を活用する場面がやや減少した。教育目標の実現に向けて、3学期以降はこれまで以上に連携を図りたい。</p> <p>(改善策等)</p> <p>・ 地域教材の積極的な活用を実現していくために、地域学校協働活動推進員へ提出する計画書の記述内容を更に簡易化する。</p>					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	① 学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。 学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、熟議によって地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	A	A
			・教師アンケート	A	
			・保護者アンケート	A	
・地域アンケート			A		
② 情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	A	A	
		・保護者アンケート	A		
		・地域アンケート	A		
③ 来校・相談体制	来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A	
		・保護者アンケート	A		
		・地域アンケート	A		
<p>(成果と課題)</p> <p>○ 学校運営協議会に、管理職や地域学校協働活動推進員だけでなく、生徒指導主事や養護教諭も参加し、様々な立場から学校生活をよくするための熟議を行うことができた。</p> <p>(改善策等)</p> <p>・ 今後も、地域とともに学校教育を盛り上げていけるよう、学校からの参加者は固定せず、議題によって柔軟に対応していく。学校あるいは地域、どちらかが活動を依頼を伝えるのではなく、「ふるさと北灘を愛する子どもたち」を一緒に育てていくという意識のもと、率直な意見を交し合う熟議を目指す。</p>					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満